

第10回東京環状道路有識者委員会について

日時：平成14年10月8日(火) 9:30~11:30

会場：ダイヤモンドホテル「エメラルド」

出席者：(委員長) 御厨 貴 政策研究大学院大学教授
(委員) 石田 東生 筑波大学社会工学系教授
越澤 明 北海道大学大学院工学研究科教授
中条 潮 慶應義塾大学商学部教授

主な意見：

これまでに寄せられた意見について

- ・寄せられた意見は集約することが必要。
- ・これからは寄せられた意見に対して答えていくことが必要。

最近のPI実施状況について

協議会における議論の進め方

- ・行政の考える方向性を旗幟鮮明にしていかなないと、内容の議論が深まらないのではないかと。
- ・効率的に進めるために、グループディスカッション形式を取り入れるなどの工夫が必要。

行政の資料について

- ・資料をニュートラルに作ろうとするあまり、文脈が見えずわかりにくい。また、強弱をつけた重点的説明が望まれる。
- ・予測方法、引用文献、データの出典などをきちんと説明し、バックデータや報告書等も見られるよう配慮すべき。
- ・計画内容（高架案、地下化インター有り案、地下化インター無し案）について、より具体的で詳細な図面を作成して、資料として示すべき。また、それぞれの計画の詳細な比較（市区町村別で、移転必要・移転不要の家屋数と面積、概算事業費など）も提示すべき。
- ・行政として議論してきたものについては、いろいろなところに資料として出せるものは出していくべき。
- ・ベネフィットとコストのうち、コスト面の情報、特に外環周辺がどうなるかの情報提供が重要。

アンケート

- ・PIの浸透度について把握すべき。相談所への来場者など関心の高い人へのアンケートも行ってはどうか。
- ・アンケートはその分析や判断のやり方が大事。

今後の有識者委員会の方針について

- ・委員会発足から約一年となることから、12月迄に提言をまとめていく。
- ・これまでに実施したPIについて、何が有効であったか評価が必要。
- ・構想段階での必要性の議論は如何にあるべきかを念頭に置いたPIが必要。その観点からPIを評価し、提言とすることが必要。
- ・外環のPIも一歩踏み出すべき時期である。そのため、行政としての考えを示し、対話が始まるようにすべき。